

# 觀賞一二つ三つ

大 岩 金

酷暑の折からとて仕事めいた事はお休みにしまして二、三觀賞の方に就て極簡單に申しませう。

先づ花園に培養してありますものうち誠に丈夫な暑さも知らぬ顔 威勢のよいのは多年性で秋又は早春の株分に依つていくらでも繁殖させる事の出來ます美人草又の名をいらん草とも申しまして花色には赤、桃、白等種にあります。これがずつと引續いて秋の末まで賑はせます。

春蒔に依つたものの一年草の中には千日草、百日草、まつばぼたん、つくばねあさがほ、矢車天人菊、かくこうあざみ等があります。

又前月に引續き朝顔、夕顔などのその折々に笑

を見せるのも大きな楽しみであります。

次に野草の一つ二つに就て申しませう。

ヒメジョオン

野山は勿論大方の荒地にでも生ひ茂る菊科のものでありまして白色の頭狀花が多數開きます。草丈は一米位に伸びる事がありまして是が一杯に茂りますとあたり満面眞白に見える事があります。

雑草だと思ひます時には一本でも残したくなくあります。又見方に依りましてはなか／＼すて難い野趣に富んだものでありましてこの數本にすゝきの二三本も添へて切りますならばこれまた切花としてなか／＼價值あるものとなります。夏開花す

る雪白のヒメジョランに對して春開花する桃色のハルジョテンなるものもあります。

その外夏の野草にはよく御承知のつゆくさ、かたばみ、ひるがほ、月見草などがあり。水草にはおもだか、河蓬、鷺草など種々あります。

又金魚や鯉の飼育に必要な藻の類にも色々あります。が中にも金魚藻は美しい種類であります。

こうした暑い夏休にこそ真にゆつくりと種々漫延してゐる野草、水草に對しての色々の情趣は味はふことが出来ませう。

渴つしては裏のトマトも見舞つてやりませう。前月に引きつゞき尙々多數收穫が出来ます。序には餘分の脇芽をつんだり乾燥しすぎて居りますれば夕方涼しい時に敷藁などしてやらなければなりません。

果樹、花物などの仕事としては芽接の時期であります。がその方法などに就きましては又の折にゆ

づりませう。

(六一頁よりつゞく) の子、大和をみなに眼覺めさせる爲には、昔ながらの貴い山や、美しい川に旅させるのがよろしからうと思ひます。そして其の時にこそ、此の握り飯を食べさせるがよろしい。

苦しい道を汗みづくになつて歩き疲れ、飢ゑかつた時に與へられた握り飯に、彼等は生命を得、氣力を新にし、生れて始めて「米」のまことの味を知ることでありませう。一粒の米にかくも貴き力と、美しい味が込められてある事を、心から驚き、且つ感謝することでありませう。

そして其の握り飯の中に秘められた梅干の有難さに、涙を催すことでありませう。

族の天地の此の糧によつて、彼等は始めて直き心と健かなる體とを養ふことを得るであらうと思ひます。